

kuraray

Possible starts here

2022年度本決算説明(総括)

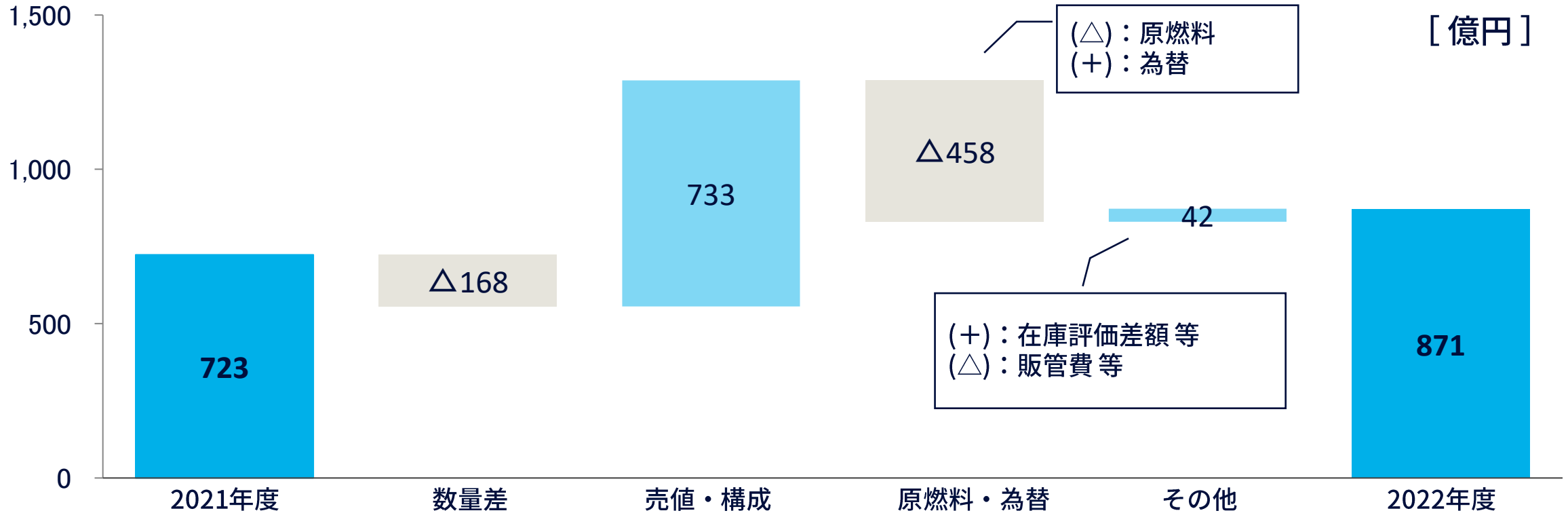
2023年2月9日

株式会社クラレ

[億円]

	2022年度	2021年度	増減
売上高	7,564	6,294	1,270
営業利益	871	723	149
経常利益	841	688	153
親会社株主に帰属する 当期純利益	543	373	170
	参考		
円／ドル (平均)	132	110	
円／ユーロ (平均)	138	130	
国産ナフサ 千円／kl	75	48	

2022年度営業利益増減分析

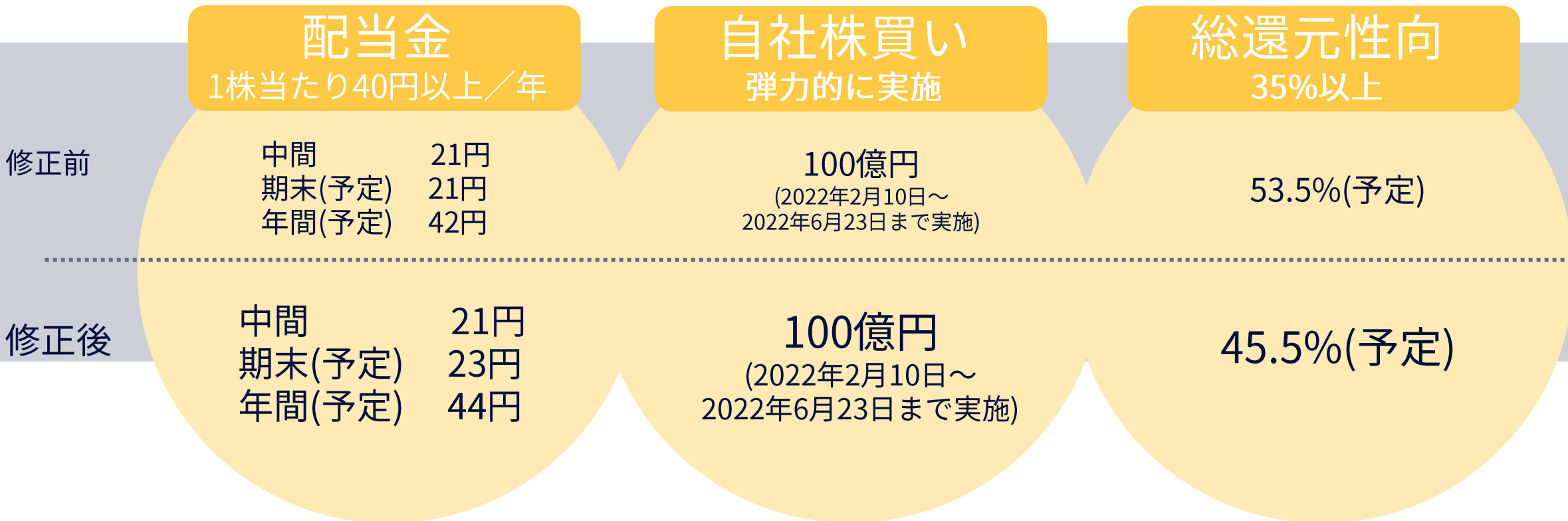


	2021年度	2022年度
円／ドル (平均)	110	132
円／ユーロ (平均)	130	138
国産ナフサ 千円／kl	48	75



	2021年度	2022年度	2026年度 目標
ROIC	6.1%	7.0%	8%
EBITDA※	1,313億円	1,526億円	1,700億円
ROE	7.0%	9.0%	10%
EBITDAマージン (参考)	20.9%	20.2%	23%

※営業利益 + 減価償却費



[億円]

	2023年度予想	2022年度	増減
売上高	8,300	7,564	736
営業利益	840	871	△31
経常利益	790	841	△51
親会社株主に 帰属する当期純利益	510	543	△33
<参考>			
円／ドル (平均)	130	132	
円／ユーロ (平均)	140	138	
国産ナフサ 千円／kl	69	75	

配当金(予定)

中間	24円
期末	24円
年間	48円

株主還元方針

総還元性向35%以上
1株当たり配当金40円以上／年
自社株買い：弾力的に実施



事業ポートフォリオの
高度化

22年度

- 光学用ポバールフィルム生産設備の増設を決定
- 〈エバール〉 欧州、米国でのデボトルを決定
- 液状ゴム 日本でのデボトルを決定
- 定量・定性評価に基づき、不採算事業を整理・撤退

23年度

- イソプレンタイ新拠点、水溶性ポバールフィルム ポーランド新工場、活性炭 米国新設備の安全立ち上げ、早期収益化
- 〈エバール〉 アジアでの新プラント建設検討
- 〈ベクトラン〉 増設
- 歯科材料の増強検討

22年度

- TCFD※1に沿った開示の拡充に向け、シナリオ分析、事業インパクト評価を実施
- PSA※2を導入、インターナルカーボンプライシングの活用拡大

- 戦略領域を6つに絞りグローバル展開を加速、10のテーマが事業化に向け進展中

- 顧客管理システム(CRM)の活用拡大

23年度

- SBT※3認定申請、サステナビリティプロキュアメントの強化

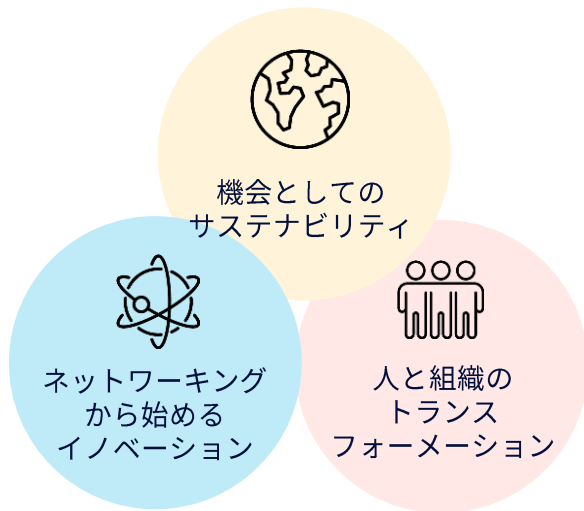
- 全社リソース活用による開発・事業化の加速

- 人材投資の強化(研修の充実、D&I施策強化、グローバルエンゲージメントサーベイに基づく施策の立案・実行)
- DX人材育成プログラムの推進、グローバルに統合されたSAPの稼働開始

※1 TCFD：気候関連財務情報開示タスクフォース

※2 PSA：ポートフォリオサステナビリティアセスメント。持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)が開発した製品ポートフォリオ評価システム。化学業界向けガイドラインに準拠したクラレPSAシステムをSphera社の支援を受け構築

※3 SBT：パリ協定が定める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する温室効果ガス排出削減目標



kuraray

Possible starts here

2022年度本決算説明

2023年2月9日

株式会社クラレ

セグメント別売上高・営業利益

[億円]

	2022年度		2021年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	3,853	775	3,047	583	807	193
イソプレ	656	43	619	61	37	△18
機能材料	1,741	86	1,424	87	317	△1
繊維	669	67	611	56	58	11
トレーディング	588	51	1,440	48	△852	3
その他	521	27	443	12	77	15
調整額	△464	△178	△1,291	△124	826	△54
合計	7,564	871	6,294	723	1,270	149

※ 2022年度より、以下の会計基準の適用、セグメント区分の変更などがあります。

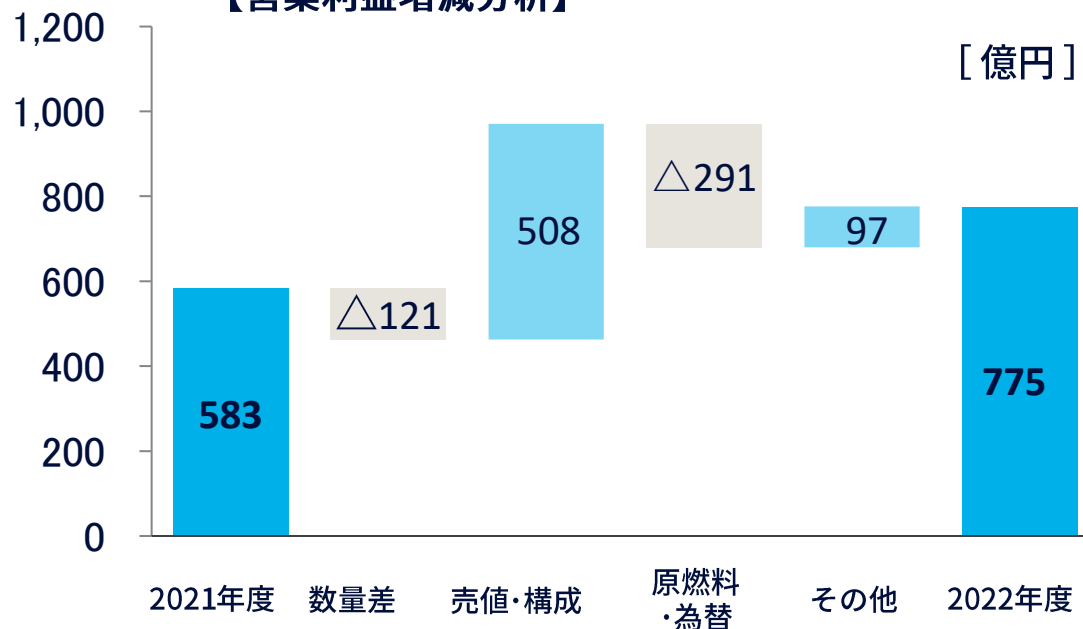
- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等の適用。(2022年度のみ適用)
- ・一部の内部取引利益の消去について、各セグメント及び全社への配分方法の変更。(2021年度、2022年度とも変更)
- ・アクア事業のセグメント区分を「その他」から「機能材料」に変更。(2021年度、2022年度とも変更)

トレーディングセグメント及び調整額の2022年度売上高が2021年度に比べ大きく変動していますが、これは主に、トレーディングセグメントにおける代理人取引の売上高の計上額について、「収益認識に関する会計基準」等の適用により、取引総額から純額へと変更することによるものです。

[億円]

	2021年度	2022年度	増減
売上高	3,047	3,853	807
営業利益	583	775	193

【営業利益増減分析】



ポバール樹脂	米国子会社の一部生産設備の不具合による停止や、年後半の需要減退により販売量が減少。原燃料高騰を受け製品価格を改定。高付加価値品へのシフトを推進。
光学用ポバールフィルム	年央以降液晶パネルの在庫調整の影響を受け、出荷が大幅に減少。テレビ用パネル大型化のニーズに対応するため、倉敷事業所での設備投資（2024年央稼働予定）を決定。
水溶性ポバールフィルム	洗濯用個包装洗剤向けの販売が堅調。
高機能中間膜	PVBフィルムが北米の建築向けを中心に堅調に推移。
〈エバール〉	食品用途が好調で販売量が増加したことに加え、製品価格を改定。旺盛な需要に対応するため、生産性向上に加え欧米での能力増強投資を決定。
主な増減要因	原燃料の高騰、物流費の上昇を製品価格の改定、高付加価値品へのシフトによる増益でカバー。物流費は増加したものの、在庫評価差額によりその他は増益。

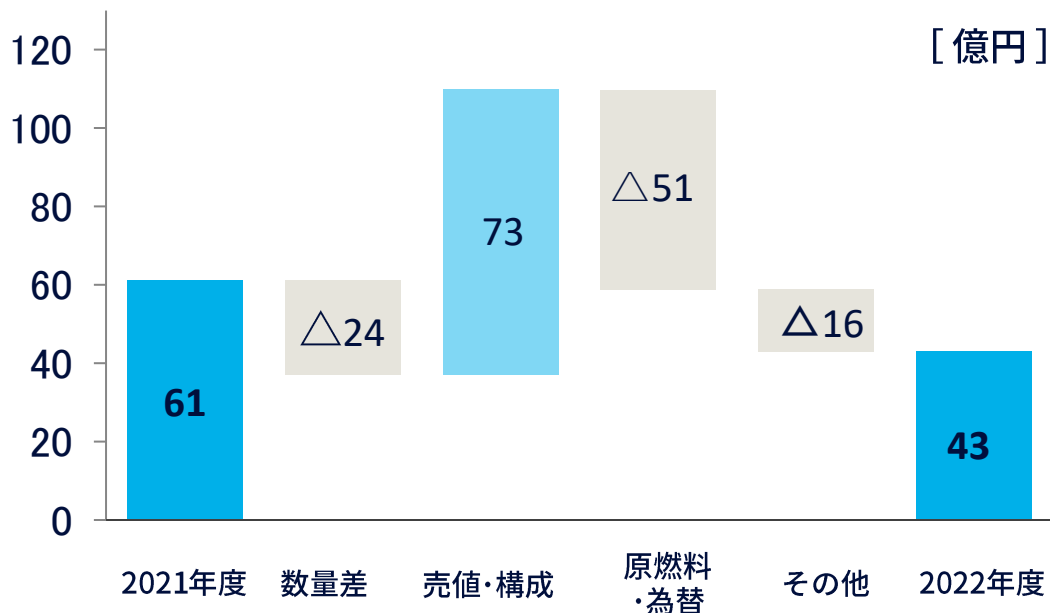
[億円]

	2021年度	2022年度	増減
売上高	619	656	37
営業利益	61	43	△18

イソプレンケミカル、 エラストマー	原燃料価格高騰を受け製品価格を改定。 一時的な原料調達難や年後半の需要減退 により販売量が減少。
〈ジェネスタ〉	自動車部材や電気・電子デバイスの在庫 調整などの影響を受け販売量が減少。

【営業利益増減分析】

[億円]



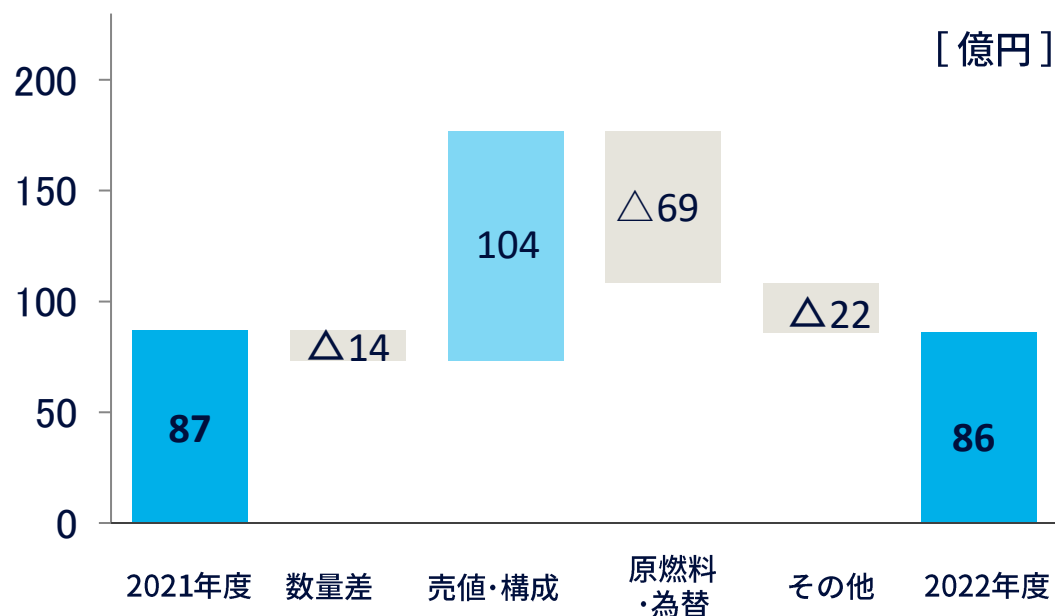
主な増減要因	原燃料の高騰、物流費の上昇を価格改定 による増益でカバーするも、一時的な原 料調達難や電気・電子デバイスの在庫調 整などの影響で販売量が減少。
--------	--

[億円]

	2021年度	2022年度	増減
売上高	1,424	1,741	317
営業利益	87	86	△1

【営業利益増減分析】

[億円]



メタアクリル	電気・電子デバイスの在庫調整などの影響を受け販売量が減少。加えて、原料高と市況悪化の影響を受ける。
メディカル	国内外で審美治療用歯科材料の販売が拡大。
環境ソリューション	欧米を中心に飲料水や工業用途の需要が増え、活性炭の販売が拡大。原燃料価格高騰を受け、製品価格を改定。
アクア	中空糸水処理膜の需要が堅調に推移。

主な増減要因	原燃料価格高騰、物流費上昇を製品価格の改定などによる増益でカバー。
--------	-----------------------------------

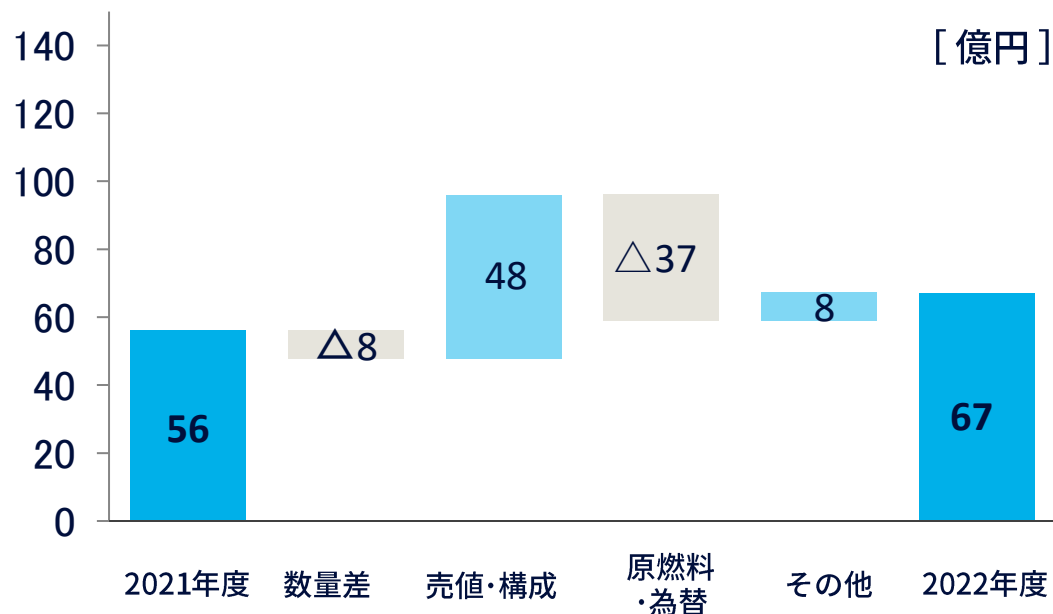
[億円]

	2021年度	2022年度	増減
売上高	611	669	58
営業利益	56	67	11

〈クラリーノ〉	車両用途及びラグジュアリー用途で販売が拡大。
繊維資材	ビニロンが自動車生産回復の遅れや年後半は景気減速の影響を受けたが、〈ベクトラン〉は輸出を中心に販売が順調に推移。
生活資材	〈クラフレックス〉が衛生用途で出荷が増えたものの外食産業の需要が低調。

【営業利益増減分析】

[億円]



主な増減要因	原燃料価格高騰、物流費上昇を製品価格の改定などによる増益でカバー。
--------	-----------------------------------

セグメント別売上高・営業利益 前回予想との比較

[億円]

	2022年度		前回予想 (2022年11月9日)		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	3,853	775	3,870	670	△17	105
イソプレ	656	43	710	50	△54	△7
機能材料	1,741	86	1,720	80	21	6
繊維	669	67	690	70	△21	△3
トレーディング	588	51	590	50	△2	1
その他	521	27	490	25	31	2
調整額	△464	△178	△470	△165	6	△13
合計	7,564	871	7,600	780	△36	91

[億円]

	2022年度	2021年度	増減
営業CF	517	782	△265
投資CF*	△720	△714	△5
フリーCF*	△202	68	△270
設備投資 (受入ベース)	726	659	67
減価償却費 (のれん償却費込み)	655	590	65
研究開発費	227	208	18

*投資CF、フリーCF：運用資金、M&A関連を除く

[億円]

	2022年12月末	2021年12月末	増減
流動資産	5,339	4,702	638
固定資産	6,876	6,208	668
資産合計	12,215	10,910	1,305

	2022年12月末	2021年12月末
円／ドル (期末)	133	115
円／ユーロ (期末)	141	131

貸借対照表②(負債と純資産の部)

[億円]

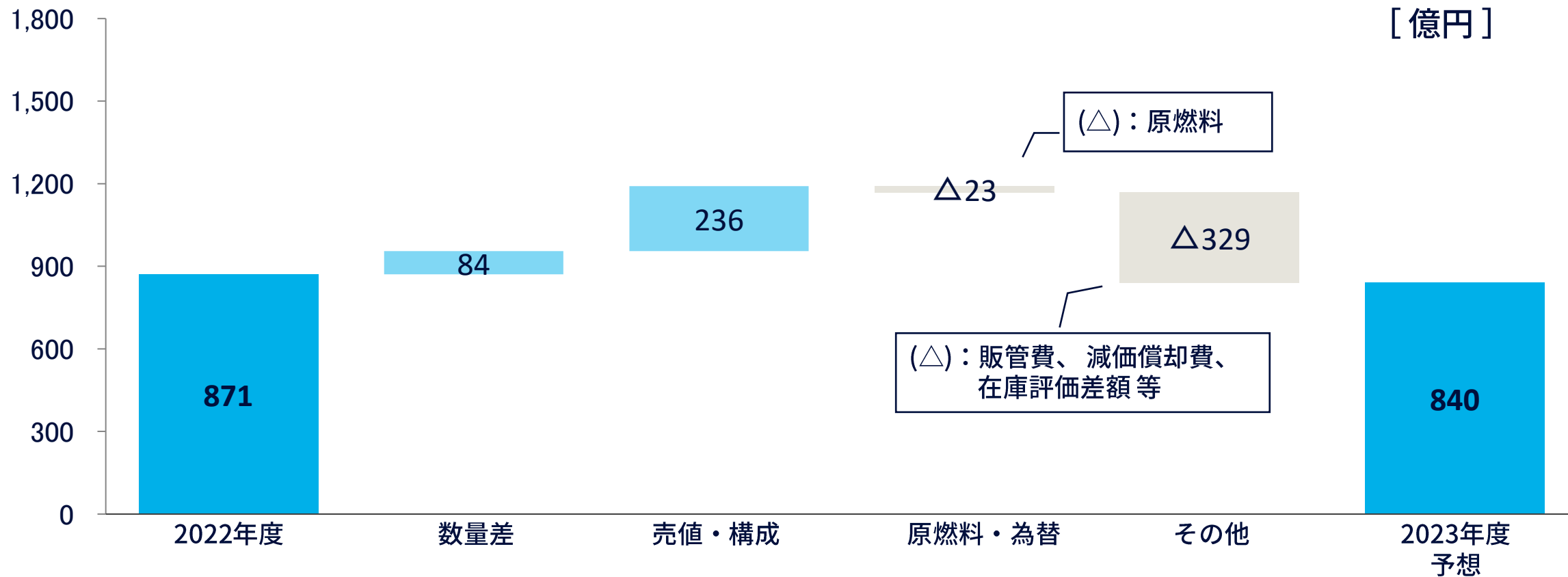
	2022年12月末	2021年12月末	増減
流動負債	2,213	2,195	19
固定負債	3,317	2,919	397
負債合計	5,530	5,114	416
純資産合計	6,685	5,796	889
負債・純資産合計	12,215	10,910	1,305
自己資本比率	52.9%	51.3%	1.6%
	2022年12月末	2021年12月末	
円／ドル (期末)	133	115	
円／ユーロ (期末)	141	131	

2023年度 業績予想及び主要指標

[億円]

	2023年度予想	2022年度	増減
売上高	8,300	7,564	736
営業利益	840	871	△31
経常利益	790	841	△51
親会社株主に 帰属する当期純利益	510	543	△33
1株当たり当期純利益	152円38銭	161円13銭	△8円75銭
1株当たり配当	48円	44円	4円
設備投資(決定ベース)	900	659	241
設備投資(受入ベース)	770	726	44
減価償却費(のれん償却費込)	770	655	115
研究開発費	240	227	13

2023年度 通期営業利益増減分析



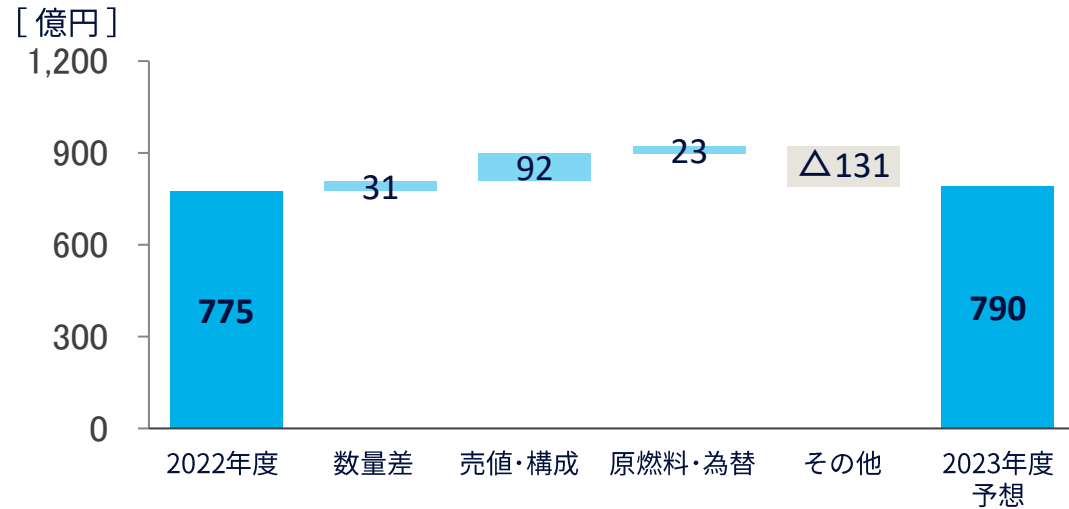
	2022年度	2023年度前提
円／ドル (平均)	132	130
円／ユーロ (平均)	138	140
国産ナフサ 千円／kl	75	69

【参考】セグメント別売上高・営業利益比較

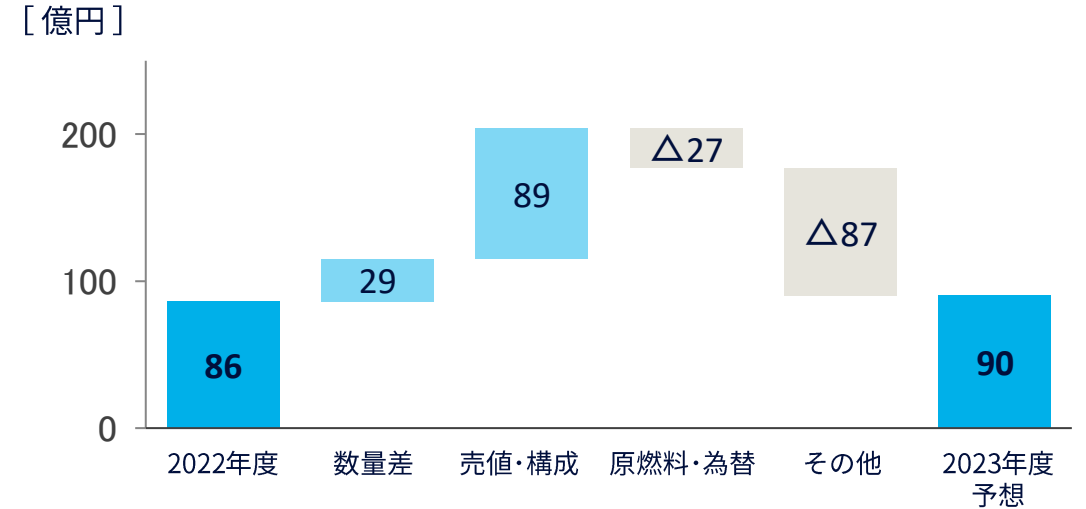
[億円]

	2023年度予想		2022年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	4,300	790	3,853	775	447	15
イソブレン	780	10	656	43	124	△33
機能材料	1,950	90	1,741	86	209	4
繊維	720	55	669	67	51	△12
トレーディング	630	52	588	51	42	1
その他	410	10	521	27	△111	△17
調整額	△490	△167	△464	△178	△26	11
合計	8,300	840	7,564	871	736	△31

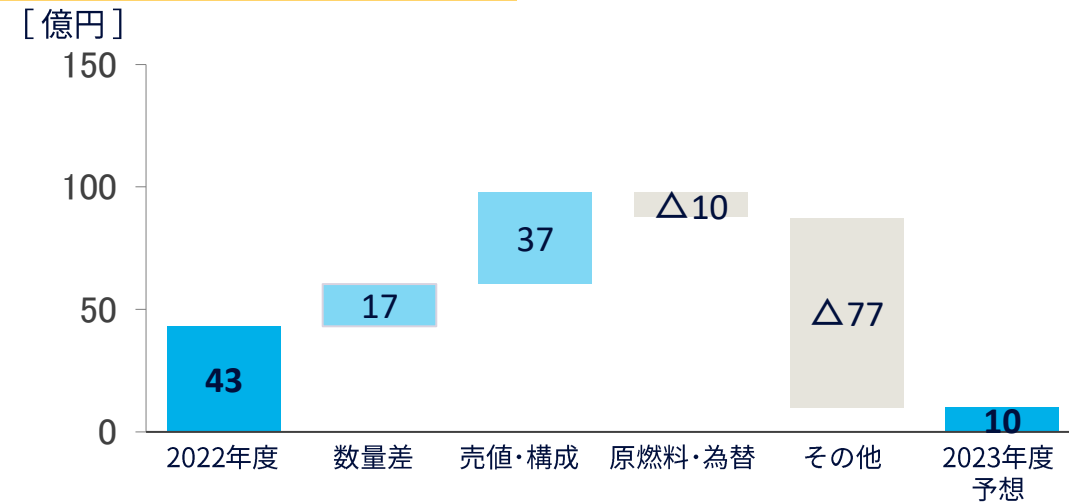
ビニルアセテートセグメント



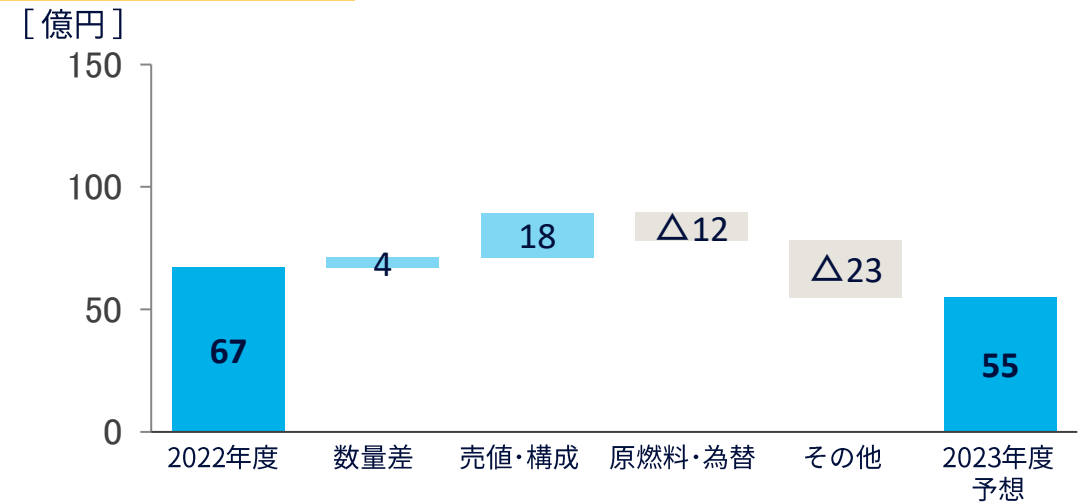
機能材料セグメント



イソプレンセグメント



繊維セグメント



[億円]

	2023年度予想			2022年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	4,000	4,300	8,300	3,580	3,983	7,564	420	317	736
営業利益	360	480	840	381	490	871	△21	△10	△31
経常利益	330	460	790	379	462	841	△49	△2	△51
親会社株主に 帰属する当期純利益	210	300	510	242	301	543	△32	△1	△33

【参考】セグメント別売上高予想

[億円]

	2023年度予想			2022年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニルアセテート	2,150	2,150	4,300	1,854	1,999	3,853	296	151	447
イソブレン	360	420	780	319	337	656	41	83	124
機能材料	910	1,040	1,950	778	963	1,741	132	77	209
繊維	330	390	720	318	351	669	12	39	51
トレーディング	300	330	630	297	291	588	3	39	42
その他	190	220	410	237	284	521	△47	△64	△111
調整額	△240	△250	△490	△223	△242	△464	△17	△8	△26
合計	4,000	4,300	8,300	3,580	3,983	7,564	420	317	736

【参考】セグメント別 営業利益予想

[億円]

	2023年度予想			2022年度			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニルアセテート	350	440	790	336	439	775	14	1	15
イソプレン	5	5	10	25	18	43	△20	△13	△33
機能材料	35	55	90	33	53	86	2	2	4
繊維	15	40	55	38	29	67	△23	11	△12
トレーディング	24	28	52	28	23	51	△4	5	1
その他	5	5	10	12	15	27	△7	△10	△17
調整額	△74	△93	△167	△91	△87	△178	17	△6	11
合計	360	480	840	381	490	871	△21	△11	△31

【参考】セグメント別 四半期売上高推移

[億円]

	2021年度					2022年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
ビニルアセテート	722	763	764	798	3,047	862	993	1,002	997	3,853
イソプレ	149	156	150	165	619	154	165	168	169	656
機能材料	309	352	358	405	1,424	380	398	459	503	1,741
繊維	137	162	149	163	611	144	174	168	182	669
トレーディング	330	362	362	387	1,440	140	158	141	151	588
その他	96	107	113	127	443	107	130	140	144	521
調整額	△299	△322	△327	△343	△1,291	△110	△112	△127	△114	△464
合計	1,444	1,579	1,569	1,702	6,294	1,676	1,905	1,951	2,032	7,564

2022年度より、以下の会計基準の適用、セグメント区分の変更などがあります。

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等の適用。(2022年度のみ適用)
- ・一部の内部取引利益の消去について、各セグメント及び全社への配分方法の変更。(2021年度、2022年度とも変更)
- ・アクア事業のセグメント区分を「その他」から「機能材料」に変更。(2021年度、2022年度とも変更)

トレーディングセグメント及び調整額の2022年度売上高が2021年度に比べ大きく変動していますが、これは主に、トレーディングセグメントにおける代理人取引の売上高の計上額について、「収益認識に関する会計基準」等の適用により、取引総額から純額へと変更することによるものです。

【参考】セグメント別 四半期営業利益推移

[億円]

	2021年度					2022年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
ビニルアセテート	135	117	186	145	583	172	164	254	186	775
イソプレ	30	3	18	10	61	27	△2	17	1	43
機能材料	10	20	25	33	87	22	11	32	21	86
繊維	6	17	24	10	56	16	22	28	2	67
トレーディング	11	12	12	13	48	13	15	11	12	51
その他	△0	3	7	2	12	4	8	7	7	27
調整額	△23	△36	△32	△33	△124	△33	△58	△21	△66	△178
合計	168	136	239	179	723	221	159	328	163	871

2022年度より、以下の会計基準の適用、セグメント区分の変更などがあります。

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等の適用。(2022年度のみ適用)
- ・一部の内部取引利益の消去について、各セグメント及び全社への配分方法の変更。(2021年度、2022年度とも変更)
- ・アクア事業のセグメント区分を「その他」から「機能材料」に変更。(2021年度、2022年度とも変更)

kuraray

Possible starts here

-
- 金額表示は億円未満四捨五入にしております。
 - 本資料中の業績予想、見通し及び事業計画についての記載は、将来の事業環境・経済状況等に関する現時点での仮定・推測に基づいています。実際の業績は、これと異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。
 - 本資料中の〈 〉表記は、クラレグループ製品の登録商標です。